

令和5年度公共事業評価部会事前質疑一覧表

番号	質問者	事業名	御意見・御質問	回答
1	郷古部会長	全事業	事業費の増額幅が大きい事業が多く、事業費の変更内容を細分化して説明いただきたい。	各事業の説明資料に盛り込む。
2	吉田委員	全事業	物価変動については事業費等のC（コスト）に反映されるが、B（便益）にほとんど加味されておらず、物価変動によるB/Cの釣り合いが取れていないことを書き留めていただきたい。	承知した。
3	福本委員	道路事業全体	評価調書内に交通量や所要時間の変更前、変更後は記載されているか。	参考資料4の様式-③1 交通状況の変化に記載している。
4	福本委員	栗原IC	栗原IC事業単独のB/Cなのか、道路ネットワーク全体のB/Cなのか、資料中で全体の使い方が混在しているため、全体の言葉の定義、考え方を整理して記載いただきたい。	事業着手時の全体B/Cは栗原IC整備事業、再評価時の全体B/Cはみやぎ県北高速幹線道路（1～IV期）を含めた一体的に効果を発揮する道路ネットワークである旨を記載する。
5	吉田委員	栗原IC	評価調書内の事業費の変更要因に【関係機関協議に伴う増額】と記載されているが、主要な変更内容が建設費なのであれば、【関係機関協議に伴う建設費等の増額】などと記載いただきたい。	承知した。
6	吉田委員	栗原IC	冬季の地吹雪など、頻発する自然災害を迂回によって回避できるようになるリダンダンシーの強化部分について記載がないため、評価調書内、事業効果の期待される効果に追記いただきたい。	承知した。
7	郷古部会長 庄子副部会長	坂津田	前回評価時から便益が上がった要因は何か。	車種別時間原単位（1台あたり、どの程度交通時間が短縮されるか）の変更、接続道路のリンク数の変更、基準年及び供用年の変更によるもの。
8	庄子副部会長	坂津田	期待される効果等の欄に、震災の復興事業により道路整備が進んだ結果、当該路線に接続される道路が増え、事業効果が増加していることを記載いただきたい。	承知した。
9	吉田委員	道路事業全体	道路整備によって燃費が向上することによるCO2排出量の削減効果について、便益算出に含まれていないのであれば、道路整備がCO2の削減に寄与している旨を期待される効果に記載いただきたい。	承知した。
10	庄子副部会長	化粧坂	暫定の状況でも便益が発生しているのであれば、残事業B/Cが事業中止するのか、事業継続して工事を進めるかの判断材料になるため、残事業便益は暫定供用部分を差し引いた形で算出するべきと考える。	現在は、仮設の落石防護柵の設置など、通行車両に対して必要最低限の安全性は確保したうえで暫定供用している状態であり、あくまで工事中区間であること、歩道や路肩の幅員が十分に確保されている状態とは言えず、道路線形もあくまで暫定となっている。 県としては、早期供用の要望を踏まえて暫定断面での供用を行っているが、本来の事業目的や緊急輸送道路に指定されている道路の位置付けを考慮すると、残る現道拡幅を含め事業がすべて完成して初めて事業の便益として評価するものと考えており、事業全体と残事業の便益は同一として算出している。
11	福本委員	化粧坂	参考資料4 14ページの資料で、並行道路（国道45号、県道5号）の通行量が減っているが何故か。 走行時間の変化を当ページで説明できると思うので整理いただきたい。	バイパス整備により気仙沼唐桑線の走行時間が2分から0.7分に短縮され、並行する国道45号及び県道5号から交通量が転換されたことにより、気仙沼唐桑線の交通量が増え、並行道路の交通量が減っている。

番号	質問者	事業名	御意見・御質問	回答
12	郷古部会長	川内沢ダム	令和3年度再評価の時点では中流域が整備されないと全体的な効果が発現しないことから、当該箇所についてダム整備と並行して進めていただくよう求めていたので、現在の関係期間との協議状況等について追記いただきたい。	川内沢川中流域について、川内沢ダムの完成は1年延期となるが、これまで通り令和8年度から着手出来るよう調整を進め、現在は名取市と県農政部と調整している。
13	庄子副部会長	川内沢ダム	便益項目の治水便益が下がり、それ以外の便益が上がっている要因は何か。	治水便益は、治水経済マニュアル上の現時点の評価額によるものであり、前回評価時から評価額が下がっているためである。それ以外の利水便益及び残存価値については、物価変動の影響から上がっているためである。
14	福本委員	川内沢ダム	利水便益が大きい理由は何故か。	ダムを利水分だけで建設した場合の身代わり建設費で、便益を算出している。不特定利水の便益を算出することが難しいため、国土交通省の通知に基づいて算出した結果を示している。
15	郷古部会長	広域防災拠点	防災効果に記載のある「災害時の避難地確保等の効果」と、大規模災害時の効果に記載のある「一時集結場所としての活用等の効果」は重複しないのか。	「防災効果」は、生活用水供給用の貯水槽などの災害応急対策施設の確保、火災延焼防止・遅延、災害時の避難地、避難者の仮設テントの設置場所、救援物資置き場などの効果を算定しており、「大規模災害時の効果」は、被災地などから基幹災害拠点病院である仙台医療センターへの傷病者の搬送効率化、広域支援部隊の一時集結場所やベースキャンプ用地として活用することによる部隊の活動開始までの時間短縮を算定していることから、重複はしていない。
16	郷古部会長 庄子副部会長 吉田委員	広域防災拠点	大規模災害時の効果については社会的割引率を考慮し現在価値化したほうが自然と考えるがどうか。	平常時の効果については開園後複数年に渡り効果が発揮されることから社会的割引率を考慮したうえで現在価値化している。一方で、「大規模災害時の効果」については、災害発生した際に生じるものとなるため、複数年に渡る社会的割引率を考慮していない。
17	庄子副部会長	広域防災拠点	防災拠点として整備した際、大規模災害時の管理手法はどのような想定か。大規模災害時に指定管理者制度による維持管理を行わないのであれば、誤解されないよう記載いただきたい。	ここにおける管理とは、平常時の公園の管理について記載したものであるから、誤解の生じないように、調書について「平常時の管理の効率化と利便の増進等を進めるため、民間手法（指定管理者制度）を積極的に活用する。」と修正する。
18	庄子副部会長	広域防災拠点	貨物ターミナル駅の移転について、JR貨物の協力を要請した上で、早めることができずいけないのか。	仙台貨物ターミナル駅の移転について、施設の規模や移転工事の内容等を考慮すると、移転時期は令和11年度とならざるを得ないとして理解している。県としては、仙台貨物ターミナル駅の移転が1日も早く完了する様、引き続き、事業者であるJR貨物を支援していく。

番号	質問者	事業名	御意見・御質問	回答
19	福本委員	広域防災拠点	大規模災害時の効果で一時集結場所としての活用と記載があるが、具体的にどのように評価しているか示してほしい。	説明資料のとおり
20	福本委員 吉田委員	広域防災拠点	広域防災拠点のスケール感（ベースキャンプとしてどれくらいの人数を収容できるのか、物資をどの程度裁けるのか）を示していただきたい。	説明資料のとおり
21	吉田委員	広域防災拠点	平面図について平常時の公園の使い方と、有事の防災拠点としてのゾーニングをそれぞれ図面を用いて説明いただきたい。 平成13年に作られた首都圏における基幹的広域防災拠点のイメージ図のような形で示していただきたい。	説明資料のとおり
22	吉田委員	広域防災拠点	・平常時の機能と大規模災害時の機能は両立しないと考えているので、それぞれで評価しないといけないと考える。平常時の効果と大規模災害時の効果を分けて説明いただきたい。 ・大規模災害時の効果を便益に加えず、都市公園として評価した場合もB/Cが1.0を超えることを示していただきたい。	今回の広域防災拠点整備事業の費用便益比は2.63であり、そのうち国の「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に該当する分の費用便益比は1.1となる。